



しかしこのマンモスケープには、ジプサムフラワー（石膏の花）と呼ばれる自然の造形物が見られ、これはこの洞窟が硫酸によって溶かされて形成された強力な証拠です。石膏の主成分は硫酸カルシウムで、石灰岩が硫酸で溶かされることでも出現するからです。ジプサムフラワーの見られる洞窟へ行けるツアーは比較的暖かい季節限定で、今回はそこへ行くことはできませんでした。

ノアの洪水で堆積した地層の上に膨大な火山灰層が堆積していることから、ノアの洪水の後、氷河が発達する環境が整ったと考えられます。

氷河期自体は500～700年続いたと考えられますが、その初期の環境は鍾乳石を急速に発達させるにふさわしい条件を備えていました。おそらく鍾乳石は、洪水後数百年でほぼ現在の姿に成長して

しまったでしょう。

今日の鍾乳石の成長速度は非常にゆっくりですが、気象条件が整うと成長速度が約1,500倍にもなるのです。詳しくは先に挙げたニュースレターをご覧ください。

今回のマンモスケープツアーでは、鍾乳石を多く見られるところへはあまり行けませんでした。それでもノアの洪水と氷河期によって造り上げられた自然の驚異を間近に見ることができました。

ツアー一行は再びバスに乗り、ドライリッジのホテルへ向かいました。途中夕食をメキシコ料理の店で取りましたが、この日が誕生日の方がいて、お店がバースデーケーキとメキシコの帽子ソブレロを用意してくれました。皆で祝った後、この珍しい帽子を次々にかぶっては代わる代わる写真を撮るなど、楽しい時間を過ごしました。その後ホテルへ行って就寝です。

アーク・エンカウンター

翌朝バスに乗り、箱船テーマパーク『アーク・エンカウンター』に向かいました。9時に到着すると、そこにはガイドをお願いしたダニー・フォルクナー博士が迎えてくれました。フォルクナー博士は、サウスカロライナ大学ランカスター校の天文学教授で、私がICR（創造調査研究所）で学んでいた時の恩師でもあります。

彼は、このテーマパークと翌日向かう創造博物館を運営するアンサーズ・イン・ジェネシスの研究者兼講演者兼ガイドとして働くために前職を早期退職して転職しました。

『アーク・エンカウンター』は、2016年に開園し、当初は箱船だ

けでしたが、少しずつ様々な施設が増設されています。現在では2,000人を収容できるコンベンションセンターも完成し、創造セミナーやクリスマスコンサートなどが開催できるようになっています。今後もバベルの塔の時代の街などが建造されていく予定です。

実物大で再現された箱船は、間近で見ると巨大な船で、木造船としては最大級となります。フォルクナー博士にガイドしてもらいながら、どのような動物が乗船し、全部で何頭くらいいたのか、どのように動物の世話をしたかなどの説明を受けました。

実際の船内がどうだったかは推測することしかできませんが、ノアとその家族だけで十分に動物の世話をできる仕組み、明かり取りの仕組み、船内での生活の様子など、想像力を膨らませて考案されており、様々な工夫が凝らされていました。

展示を見ながら船内を歩き回るだけで、十分な見応えがあり、ひとつひとつじっくりと展示を見ようと思ったら、丸一日かけても足りないと感じるほどです。



Photo by: Miyuki Sakai

アークエンカウンターのガイドをしていただいたダニー・フォルクナー博士：天文学者



夕方またバスに乗り、次のホテルへ向かいました。途中、フォルクナー博士と共に夕食をとりましたが、次々と博士に質問が飛び、とても充実した時となりました。

ただ、連日通訳をし続けたことで私の声がほとんどでなくなってしまい、翌日の創造博物館のガイドができなくなってしまいました。しかし急遽、サカエ・マーシュさんが案内してくださることになりました。サカエさんは、アーク・エンカウンターと創造博物館の総責任者パトリック・マーシュさんの奥様で日本人です。

創造博物館

翌朝サカエさんと創造博物館の入り口で待ち合わせをしました。創造博物館の展示内容は、以前訪れた時は知的情報に訴える傾向が強かったのですが、今回はだいぶイメージが変わっていました。

展示やアートを通して、知的なだけではなくより感性にも訴え、何が大切なのかを考えさせようとしているように思われました。また、以前よりも創造からバベルの塔までの歴史の各場面が充実し

て造り込まれていました。

博物館レストランでの昼食中に、「ここにいたんだね」と英語で話しかけられました。誰だろうと思って顔を上げると、そこにいたのはアンサーズ・イン・ジェネシスの講演者ブライアン・オズボーン氏でした。

彼は2018年に沖縄で開催された全アジア創造カンファレンスの講演者であり、今年7月に台湾で開催された時も私と共に講演してきた仲です。あれだけ人が溢れているレストランで、良くも私のことを見つけたものだと思いつつも、しばしの良い交わりの時を過ごしました。

アークエンカウンターや創造博物館には、聖書を信じていない人もたくさん訪れます。展示を通して救いを信じて帰る人も多くいると聞きました。ますますこれらの施設が用いられることを願わずにはいられませんでした。また、私の代わりにふさわしいガイドを用意してくださったことを主に感謝しました。

一行は翌11月22日、シンシナティ空港から日本に向かって旅立ちました。参加された方々には、

私の喉の痛みのために十分な働きができず申し訳なく思います。のど飴や薬をくださった方々、お祈りしていただいたみなさま、ありがとうございました。

そのような中であっても、主がすべての必要を備えてくださったことを覚え感謝します。また、今回ツアーに参加された方々にとって、聖書に記されている通りの出来事が史実であり、主が歴史の支配者であることを心に留めていただけたなら幸いに思います。

創造主のみわざ

さて、今回私自身、深く考えさせられたことがあります。それはフォルクナー博士への質疑応答の時のことです。

ある方の「何十億光年も離れた星の光は、どのようにして地球に届いたのですか」との質問に、フォルクナー博士はこう答えました。

「まず、創造の第三日について考えてほしい。植物が造られた時、それは土から芽を出して瞬く間に成長し、実の生った状態にまで成長したことが聖書に書かれている。これは超自然的な創造のみわざであって、今日の自然法則は当てはまらない。

同様に、創造の第四日に太陽・



Photo by Megumi Aono

創造博物館のガイドをしていただいたサカエ・マーシャルさん



Photo by Megumi Aono



月・星が造られた時、この第四日のうちに星から発した光が地球に届いている状態になったと考えられ、これも超自然的な創造のみわざである。もし、今日の自然法則を創造の第四日に当てはめようとするなら、それは進化論の土台にある斉一説の考え『現在は過去を知る鍵である』を創造週に当てはめることになり、全能の創造主の力を過小評価することになる。」

これを通訳しながら、同じ質問を受けた時のこれまでの私の回答を反省させられました。これまで、現在の光の速度と自然法則にしたがって、どのように創造週の第四日のうちに地球に光が届くことが可能かを説明してきました。

これについてはいくつかの説明が可能ですが、天体の創造を自然法則で説明しようと努力することはむしろ間違いで、これは超自然的に行われた創造のみわざだということを強調することが大切だと気づかされました。その時思い浮かんだのは次の聖書の言葉です。

御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現われであり、その力あるみことばによって万物を保っておられます。(ヘブル書 1:3)

御子は、その全能の力をもって超自然的に万物を6日間で造られただけでなく(ヨハネ 1:3)、現在はその大能の力でそれを保つ働

きをしているということです。

その万物を保つ法則を人は自然法則と呼んでいますが、実際には御子の力によって保たれているということを深く心に留める必要があると思われました。

そして、ペテロはやがて万物が大きな響きと共に崩壊し万物は焼き尽くされ、崩れ去ることを教えています。(2ペテロ 3:10) これは御子が万物を保つ働きを止める時でしょう。しかしそれで終わりではありません。

白い御座の裁きの後、新天新地が用意されます。今度は一週間もかけずに、瞬時に造られるのではないかと私は推測しています。

これも超自然的な創造のみわざです。創造主のみわざを前にする時、人の知恵と知識を常識としてそれを理解し把握しようとするのが、いかに愚かであるかを改めて思われました。

18世紀から今日まで、人は創造主の超自然的な働きを無視し、否定するようになり、すべてを自然の力で説明しようと試みてきました。これは創造主に対するどれほどの不敬の罪でしょう。どれだけ主は怒りをこらえておられるでしょう。(ローマ 1:18-20) それでも人を愛してくださる主に、ただ赦しと哀れみを願わされるのです。

お知らせ

「創造主と共に生きて」

好評発売中

名誉会長
宇佐神 正海 自伝

全35ページ

定価 250円+税



献金のお願い

国内外に主のみわざを伝えるため、ご支援をお願いします。

ジェネシスジャパン

ゆうびん振替 00350-7-3364

ゆうちょ銀行 10650-52405611

講義・イベント予定

■ 創造を伝える働き人養成講座

短期講座

日程：2024.01.29-30

会場：グレースチャペル(網走市)

■ CFNJ 聖書学院講義

日程：2024.02.05-07

会場：CFNJ 聖書学院

■ SICS クリスマンスクール

日程：2024.02.08-09

会場：札幌キリスト福音館

■ 礼拝奉仕

2024.01.28 苫小牧キリスト教会

2024.02.04 室蘭キリスト教会

2024.02.11 青森バプテスト教会

お問い合わせは

ジェネシスジャパンまで

創造を伝える働き人養成講座

【募集要項】

聖書を創造主の言葉と信じる方。

イエス・キリストを救い主と信じる方。

創造を信じる大切さを伝えたいと願う方。

講座の目的と概要

- * 創造主のみわざのすばらしさに感動し、その感動を伝える働き人が起こされる。
- * 創造論の講演に加え、創造論の背景となる知識や考え方を少人数で学ぶ。
- * 創造を伝えるために役立つ資料の提供。
- * 修了証授与(全日程参加者)
- * 創造論を用いての個人伝道、CSや教会でのメッセージ、講演ができるよう協力。

(参加費等はお問い合わせください)

詳細はジェネシスジャパンまで